

編集後記

小田 丈二 東京都がん検診センター消化器内科

本号は、病理から九嶋先生、臨床から平澤先生と筆者の3人で企画し、編集委員会での議論を経てこのように仕上がった。今回の企画では、食道胃接合部(噴門部)癌や家族性腫瘍(遺伝性胃癌など)は対象としていないことをはじめにお断りしておきたい。

さて、胃癌の主たる原因が *H. pylori* (HP) 感染によるものと考えられるようになり、その後HP陰性胃癌の報告も増え、今後増加が予想されるHP未感染胃の上皮性腫瘍について、現状を把握すべく取り組んだものである。

九嶋の序説では、HPと胃癌の関係について、時代的な、そして病理組織学的な背景と胃粘膜上皮の分化に関して解説され、HP未感染胃腫瘍が類別化して述べられている。

主題の鈴木論文では、HP感染率、HP未感染胃上皮性腫瘍の疫学、年次推移、そして臨床病理学的特徴について、実際の症例を提示しながら述べていただいた。

筆者らの論文ではHP未感染胃上皮性腫瘍のX線読影上の注意点として、スクリーニングX線検査と精密検査の観点から、実際の症例を用いて解説した。

HP未感染胃上皮性腫瘍の内視鏡的な特徴に関して、上山論文では「胃底腺型胃癌」、今村論文

では「胃底腺粘膜型胃癌」、中沢論文では「胃型腺腫(幽門腺腺腫)」、柴垣論文では「ラズベリー様腺窩上皮型胃癌」、吉村論文では「印環細胞癌」について、それぞれの内視鏡像を提示しながら詳細に解説していただいた。頻繁に経験する病変ではないので、熟読のうえ、さながら自分が経験した症例のように目に焼き付けていただければと思う。

主題研究として、吉田論文ではHP未感染進行胃癌の臨床病理学的特徴について、これまで報告の少なかった進行胃癌自験6例と早期胃癌自験21例23病変との比較を行いながら解説していただいた。

主題症例は、「胃底腺型の進行胃癌」、「HP未感染の腸型分化型腺癌」、「HP未感染の前庭部に発生した胃型の分化型癌」、「HP未感染の自己免疫性胃炎に発生した胃癌」とどれも貴重な報告例である。

これらの貴重な症例を、本誌ならではの美しい画像で勉強できることは大変有意義なのではないか。現状を把握しながら、最新の知見をこの一冊を通して疑似的に経験することができるわけである。

最後になるが、上部消化管診療に携わるものが、今後遭遇する可能性が高くなるであろうこれらの疾患に対し、本号は読破すべき必読の書と考える。